

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 群馬県 】

学校名【 県立あさひ特別支援学校 】

1 実践テーマ	①・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ ⑤（複数選択可）
2 実施対象者  （学年・人数）	群馬県立あさひ特別支援学校 小学部1～6年 38名 中学部1～3年 29名 高等部1～3年 36名
3 展開の形式	<p>（1）学校における活動</p> <p>① 教科名（保健体育，総合的な探究の時間， ホームルーム，道徳）</p> <p>② 行事名（ ）</p> <p>③ その他（ ）</p> <p>（2）地域における活動</p> <p>① イベント名（ ）</p> <p>② その他（全国ボッチャ選抜甲子園出場）</p>
4 目標  （ねらい）	児童生徒のオリンピック・パラリンピックへの興味関心を向上させ、スポーツの価値への理解を深めるとともに、自ら挑戦しようとする心を育む。
5 取組内容	<p>○保健体育でのボッチャ</p> <p>すべての学部、すべての教育課程でパラリンピック種目であるボッチャに取り組んだ。小学部や自立活動を主とした教育課程の児童生徒はレクリエーションボッチャを中心として興味関心を高める授業を行った。一方で中学部、高等部では競技としてのボッチャを中心に取り組んだ。特に高等部では競技者としてだけでなく審判の知識や技能の向上も目指すことで、生涯にわたって競技ボッチャに関わることができると考えた。</p>
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>担任と一緒にレクリエーションボッチャを楽しむ。</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>作戦ボードを使って、試合中の戦術の振り返り。</p> </div> </div>



審判員として、生徒がゲームを仕切る。知的代替の教育課程の生徒も、ルールを理解して審判ができるようになった。

### ○総合的な探究の時間

高等部知的代替の教育課程では、総合的な探究の時間に「コロナ禍での応援を考える」と題して、どうすればコロナ禍でも選手の気持ちを盛り上げる応援ができるかを考えた。生徒からはたくさんの意見が出たが、その中の一つ「選手に見えるような大きなパネル」を作成した。実際にオリンピック・パラリンピックで掲げることは難しいので、本校のボッチャチーム「Sun Rise」が全国大会予選を行う際の応援で使うことにした。



たくさんの写真の中から、みんなの笑顔を取り抜き、貼り絵で「ファイト！」の応援パネルを作成した。



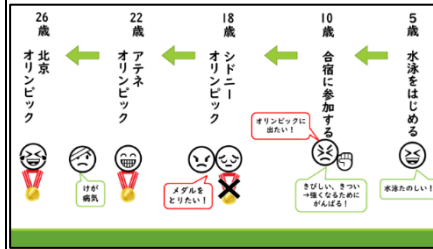
### ○道徳（小学部準ずる教育課程、高等部知的代替の教育課程）

小学部ではパラリンピアン谷真海さんを取り上げ「夢や目標をもつことの大切さ」について考えた。生徒からは「こういうこと（パラリンピック）をやっているなんて知らなかった。選手を応援したい。」や「みんなすごい。すべての選手を応援したくなりました。」といった感想があった。





高等部では北島康介さんを取り上げ「夢や目標をもつこと、努力することの素晴らしさ」について考えた。生徒たちは「僕もがんばります。」や「(体育の) ボッチャで勝ちたいです。」といった感想や「今まではすぐに諦めていたけど、もう諦めません。」といった感想を聞くことができた。



### ○特別活動

小学部知的代替の教育課程では「オリンピック・パラリンピックを知ろう」と題して、歴史や競技について学習し、授業の終わりには児童が興味をもったパラリンピック競技を体験する学習をした。児童は「楽しい。もっとやりたい。」と興味関心を高めることができた。




歴史や競技について映像や画像で学習後に、バドミントンを体験した。

高等部知的代替の教育課程では「オリンピック・パラリンピックとピクトグラム」と題して、「東京2020教育プログラム」の学習資料を使い、ピクトグラムについて学習した。「ピクトグラムは何のためにあるのか。」の問いに対して「おしゃれたから。」「見ただけでわかるから。」「字が読めなくても平気。」「外国の人もわかる。」などたくさんの意見が出された。休み時間には「この競技は何でしょう。」と生徒同士でクイズを出し合い楽しむ様子も見られた。



「家族に教えたい。」とピクトグラムを覚えたり、「この競技は何でしょう。」と休み時間に生徒同士で楽しんだりした。

	<p>○ボッチャチーム「Sun Rise」  今年度も全国大会での勝利を目指して「Sun Rise」を結成した。今年度は太田市にある「株式会社ぷらすてん」様からチームの活動を支援していただけるというお話があり、ユニフォームを新調した。今年度はコロナ禍のためリモートでの予選が行われることになり、現在予選通過を目指して練習中である。</p> 
<p>6 主な成果</p>	<p>○パラリンピック競技としてボッチャを学習したことで、楽しむことはもちろん、勝利を目指して仲間同士で話し合ったり、教師にアドバイスを求めたり、自分から練習をしたりと「やらされる運動」から「自ら楽しむスポーツ」に変わってきた。Sun Riseに所属する1名は、パラリンピアンを目指して協会に登録し、本格的に競技を始めた。</p> <p>○コロナ禍で、できないことを残念がるのではなく、できることを楽しむ生徒が多くいることを実感した。</p> <p>○オリンピック・パラリンピックの競技や選手を知ることによって「オリンピック・パラリンピックを観たい。」と興味関心が高まった。</p>
<p>7 実践において工夫した点  (事業の特色)</p>	<p>○これまでも継続的に取り組んできたボッチャを教材として、競技や審判に発展させることで、無理なくレベルアップを目指しながら興味関心が高まるようにした。</p> <p>○児童生徒がお互いに意見を出し合ったり、自分たちで調べたりする学習を増やすことで、より深く考えたり、学んだりできるようにした。</p> <p>○本校の特性上、コロナ禍で講師を呼ぶことが難しかったが、少しでも多く、生徒の印象に残る取り組みになるよう、画像や映像を多く用いたり、制作活動、体験活動を取り入れたりした。</p>
<p>8 主な課題等</p>	<p>○本校の特性上、コロナ禍で講師を迎えて授業を行うことが難しく、印象的な取り組みができなかった。リモートという選択肢もあったが、画面を通じた学習が苦手な生徒も多いことから見送った。</p> <p>○生徒の中には、周りの生徒の反応を見て、その場の雰囲気を感じたり、喜びや感動を味わったりする児童生徒もいるが、今年度はコロナ禍で、そういった場を提供することができなかった。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>現時点で来年度の内容は未定であるが、ボッチャの指導は継続予定である。コロナ禍にあり、児童生徒が集まって活動することが難しくなっているが、在校生の中には全国大会を目指す生徒もいる。リモートで競技を行える環境を整え、よりレベルの高い学習を進めたい。今後もボッチャが中心になると考えているが、オリンピック・パラリンピックを通して、スポーツの価値への理解を深める取組をしていきたい。</p>